

# 宗教と心理療法・カウンセリング の「心の支え」をめぐる役割分担

徳田英次

(桐蔭横浜大学医用工学部)

2006年11月3日 福岡国際会議場

日本心理学会第70回大会

WS020 宗教心理学的研究の展開(4)

# 本発表の目的

- ✓「心の支え」「苦悩からの癒し」を求める人が、宗教と心理療法をどのように使い分けているのか？
- ✓上記の問題を、宗教心理学的理解（本発表では具体的には、金児（1997）の日本人の宗教観）を手がかりに検討する。

# 日本人の宗教観(金児、1997)

- ✓ 向宗教性
  - ✓「信仰をもっていれば、死に直面しても安らぎの気持ちを持つことができる。」
- ✓ 加護観念(オカゲ)
  - ✓「祖先崇拝は美しい風習である。」
- ✓ 靈魂観念(タタリ)
  - ✓「死後の世界はあるように思える。」
- ✓ 向宗教性は「信仰」意識、加護観念と靈魂観念は「靈性」意識にあたる。

# 大学生の宗教観

	TCI 自己志向	TCI 協調志向	TCI 自己超越	EPSI 自己確立	GHQ28 精神不健康	不安と不眠	社会活動低下	平均(SD)	$\alpha$ 係数
向宗教性	0.22	0.26						1.64 (0.46)	0.85
加護観念	0.26	0.40	0.37	0.29	-0.13		-0.21	2.34 (0.56)	0.80
靈魂観念		0.35	0.46			0.19		2.88 (0.55)	0.76
加護-靈魂	0.21			0.27	-0.22	-0.22	-0.26	(1反対-4賛成)	
自己確立	0.66	0.48	0.14						
精神不健康	-0.29		0.16					TCIはN=62	
身体症状	-0.32		0.16	-0.15				EPSIはN=73	
不安と不眠	-0.16		0.20					GHQはN=61	
社会活動低下	-0.31	-0.17		-0.20				全体ではN=78	
抑うつ		-0.24						※ 0.10より大きい相関のみ	

# 悩みの相談先と理由(大学生)

- ✓ 宗教を選択(11名、内6名は両方選択)
  - ✓ 家族で信仰している。
  - ✓ 人に話す、頼ることが必要だ。
- ✓ 心理療法のみを選択(42名)
  - ✓ 科学的、医学的根拠がある。効率性が高い。
  - ✓ 宗教に対する嫌悪、不信、無関心から。
  - ✓ 宗教に対して自己喪失の脅威を持つ。
- ✓ どちらも選ばない(25名)
  - ✓ 自分の問題は自分で解決すべきだ。

# データからのまとめ

- ✓ 大学生において霊魂観念は比較的高いが、向宗教性は低い。
- ✓ 向宗教性と加護観念・霊魂観念は質が異なる。
- ✓ 加護観念は精神的健康と関連し、霊魂観念は精神的不健康と関連がある。
- ✓ 加護観念とE・エリクソンの自己確立、TCIの自己志向・協調志向は正の相関がある。
- ✓ 信仰に救いを求めるのは家族やその共同体が信仰を共有する場合である。

# まとめ

- ✓ 加護観念と靈魂観念は靈性意識のポジティブな面とネガティブな面を表している。
- ✓ 靈性意識が高く、中でも靈魂観念を強く持つが向宗教性が低い人は心理療法に「癒し」を求める。
- ✓ 靈性意識が高いクライアントに対する臨床心理学的援助では、向宗教性を高めるのではなく、加護観念を高めるように働きかけることが倫理的な問題が少ないのではないか。
- ✓ 宗教心理学的理解は、宗教の側からではなくユーザーの側からの宗教意識を明らかにするので、臨床心理学的援助を行ううえで有用である。